

高齢級カラマツ人工林の腐朽について

問 25年生のカラマツ林をもっています。あと20～30年おくと材の利用価値が高くなると聞きますので、伐期を延長したいと思っています。その際、腐朽の心配はないでしょうか。

(網走市、〇生)

答 最近、カラマツの長伐期施業にともない、腐朽を心配される所有者が増えてきました。御承知のとおり、北海道には林齢60年に達するカラマツ人工林があまり多くありません。このため、高齢級カラマツ林の腐朽実態を詳細に説明することは困難です。ここでは、今までの調査例をもとに質問にお答えします。

あなたの山林の将来の腐朽実態を予測する第一の判断基準は、間伐時の腐朽実態です。私達が行ったアンケート調査では、全調査地(91か所)平均の腐朽木数率は3%でしたが、調査地別には、心材腐朽本数率が口高支庁管内の6.3%から空知支庁管内の0.1%まで、辺材腐朽本数率は上川支庁管内の11.8%から渡島・空知・根室各支庁管内の0%までと、調査地域ごとにやや異なった実態を示していました。これを参考に、まず、あなたの山林で、間伐時に腐朽がどれだけあったかを考えて下さい。もし腐朽木が異常に多ければ、長伐期施業にむかない可能性があります。

第二の判断基準は近くの高齢級林分の腐朽実態です。あなたの山林に直接参考となる例がありませんので、高齢級鉄道防雪林の腐朽実態を紹介します。この林分はほとんど無施業のため、野そ被害が多く、それに関連した辺材腐朽がかなり見られました。また、水のたまりやすい凹地などのやや過湿地には心材腐朽が集中していました。この調査は特殊な設置目的の防雪林で行ったもので、長伐期施業下のカラマツ人工林の腐朽実態を反映しているとは思えません。しかし、次の2点の指摘はできます。第一は、野そ被害木を早期に間伐することです。第二は、将来の利用上とくに問題の多い心材腐朽が、水のたまりやすい凹地などのやや過湿地に発生しやすいということです。本州のカラマツ林でも同様の例が報告されています。もしあなたの山林がこのような状況下にあるなら、長伐期施業にむかない可能性もあります。なお、長伐期施業に不適な立地は、このほか風衝地や気象害を受けやすいところ等が考えられますが、まだ詳しくわかっていません。

最後に枝打ちについてふれておきます。枯死枝から腐朽が入り、心材腐朽へ発展する例があります。このような心配を回避するため、速く巻込みを完了させるための適確な枝打ちが必要です。あなたの山林でも心がけて下さい。

(樹病科 村田義一)

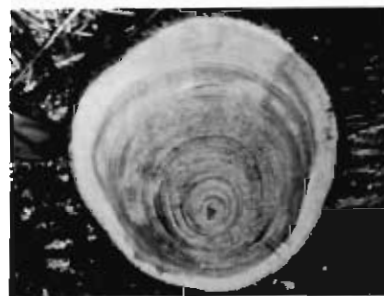


写真 高齢級カラマツの心材腐朽